4 心房細動とアンチエイジングは無関係ではない

Atrial fibrillation and anti-aging

向井　靖
Yasushi Mukai

福岡赤十字病院循環器内科／九州大学医学部循環器内科

Key Words

- 心房細動
- 加齢医学
- 心不全
- 脳梗塞
- カテーテルアブレーション

Summary

Atrial fibrillation (AF) is a common form of atrial tachyarrhythmia in the elderly and is associated with cardiovascular morbidity and mortality. In view of the associated risk of heart failure and stroke, AF may be regarded as an exacerbating factor of the cardiovascular aging. In the past decades, both oharmacological and non-pharmacological treatments of AF have been emerging, leading to better clinical outcomes.

はじめに

心房細動は心房に由来する不整脈の一つで，頻脈性不整脈としては罹患者数がもっとも多い。わが国では70万人以上の患者数と推定され，さらに近年増加傾向といわれている[1)]。心房細動は加齢とともに増加する疾患であり，心不全や脳梗塞をはじめとする重篤な心血管病のリスク因子であることから，心血管系全体の加齢を加速させる重要な因子ともいえる。健康寿命，アンチエイジングを考える上できわめて重要と考えられる。

心房細動の病態

心拍動は，右心房に存在する生理的ペースメーカー（洞結節）の発火により歩調取りされており，そのような正常な心臓の調律を洞調律と呼ぶ。洞調律においては，１心拍あたり左右の心房が１回収縮し，左右の心室を拡張末期に充填させるブースター効果を発揮している。心房細動では心房筋が無秩序かつ多数の細胞興奮に支配されるため，心拍数の制御に異常をきたすとともに，心房の正しい収縮ができなくなる（**図１**）。心房細動の際には心拍数はしばしば異常に多くなり，頻脈をきたすことが知られ，急性心不全の原因となる。心房細動の原因は，左心房に環流する肺静脈の合流点などから異常な興奮が生成され，心房筋に多数の渦巻き状の興奮が連鎖的に発生することである。心房細動は発作中の心電図が記録できれば，診断は容易である（**図２**）。心房細動の発症は遺伝的要素も大きいが，生活習慣病や加齢と重要な関連がある（**表１**）[2)]。

向井　靖
福岡赤十字病院循環器内科部長
九州大学医学部循環器内科臨床教授
平成８年 九州大学医学部卒業
所属学会：日本循環器学会・上級会員（FJCS）・九州支部評議員，日本不整脈心電学会・評議員・カテーテルアブレーション委員会委員
y_mukai@junnai.org

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.